

# IFACケーパタウン総会及び 理事会報告

IFAC（国際会計士連盟：International Federation of Accountants）の総会が2012年11月14日及び15日、理事会が11月16日に南アフリカのケーパタウンで開催された。日本からは、総会には、山崎彰三会長、木下俊男専務理事及び筆者が出席し、理事会には、木下俊男専務理事（テクニカル・アドバイザー）及び筆者（ボード・メンバー）が出席した。以下、総会及び理事会の概要等を報告する。

## I IFAC年次総会

### 1. 新会長の就任

新会長にニュージーランドのWarren Allen氏、新副会長に米国のOlivia Kirtley氏が就任した。Kirtley氏は、IFACでは初めての女性の副会長である。なお、正副会長の任期はそれぞれ2年である。

### 2. 理事会及び指名委員会メンバー

理事会メンバー8名、指名委員会メンバー5名の選任が承認された。

### 3. 米国より提案された決議案

2012年6月のIFAC理事会において、準加盟団体である英国のアカウンティング・テクニシャン協会（AAT-UK）からの正式な加盟団体

となるための申請について議論され、記帳技術等を専門とするスペシャリストがIFAC加盟団体としてのプロフェッショナル・アカウントに含まれるか否かが問題となった。これに関連して、米国公認会計士協会（AICPA）より会員資格の見直しに関する提案が総会に対してなされた。提案の内容は、現在、1つしかない正式な会員資格に分類を設ける検討を行うというものである。

決議に先立ち、定款見直しに関する分科会が設けられ、参加者からの意見聴取が行われ、IFACの包含性（inclusiveness）をどうとらえるか、準加盟団体の位置付けをどうするか等の様々な意見が寄せられた。これを受けてAICPAの提案に対する決議が行われ、日本は賛成票を投じたが、反対多数で否決された。

### 4. 新規加盟団体

AAT-UKとモンゴル公認会計士協会を正会員（Member）、6か国の団体（アルバニア、ナイジェリア、ロシア（IPA）、ルワンダ、トーゴ、ポルトガル（OTOC））を準会員（Associate member）とすることが承認された。なお、モンゴルの正式加盟については、JICPAが推薦を行って

いる。

また、アフリカの地域組織として、東・中央及び南アフリカ会計士連盟（ECSAFA）に代わって、汎アフリカ会計士連盟（PAFA）が承認された。

### 5. 予算と年会費

IFACの2012年の費用予算は27.6百万ドルであったが、2013年は前年比概ね5%増の28.4百万ドルとする議案が承認された。予算増額は、主に倫理、公会計等の国際基準の設定活動の強化・充実のための費用増加に対応するためである。また、年会費（各加盟団体の分担金）を、全体で前年比約6.4%増とする議案が承認された。各加盟団体の年会費（分担金）は、各国の国民一人当たりGNI（国民総所得）等で計算した割合をベースとして決められており、JICPAの分担金は2012年の67万9,000ドルが、2013年は70万5,000ドル（3.75%増、JICPAの47事業年度予算の範囲内）となる予定である。

### 6. SMOの改訂

IFAC加盟団体が遵守すべき義務に関するステートメント（SMO：Statements of Membership Obligations）の改訂案が2012年9月に理

事会の承認を受けており、その最終承認が行われた。SMOは、7つのステートメント（品質保証、国際教育基準、国際監査基準、倫理規程、国際公会計基準、調査及び懲戒、国際財務報告基準）から成るが、基本的に、IFAC加盟団体の努力目標（Best endeavor）とする内容として位置付けられているといえる。今回の改訂では、Best endeavorの概念を残してはいるが、各SMOの記述で、従来は記載されていなかった"Shall"（より厳しい遵守義務を表現する記述）や、"Adopt"（国際基準を翻訳して受け入れる等）を使用する等、実質的に、SMOをより厳しくする表現になっている。

#### 7. セミナー及びワークショップ

総会に付随して、各半日ずつセミナーとワークショップが開催された。セミナーにおいては、統合報告が取り上げられ、国際統合報告評議会（IIRC）議長のMervyn E. King教授の講演や、導入に関する実務経験、中小企業に対する導入についての講演があった。

ワークショップにおいては6つの話題が取り上げられ、パネリストによるプレゼンテーションと、会場との意見交換が行われた。

#### 8. その他

- 2014年11月10日から13日にかけて、イタリア・ローマにおいて開催される世界会計士会議（WCOA）に関するプレゼンテーションが行われた。
- 次回の総会は、2013年11月13日、14日に、韓国・ソウルで開催される予定である。

## II IFAC理事会

### 1. 理事会メンバーの交代

総会の承認を受け、理事会メンバーの約3分の1（8名）が交代した。新メンバーとして、カナダ、北欧、中国、韓国、南アフリカ、ジャマイカ、フランス（重任）、英国（重任）の各代表が就任し、カナダ、北欧（会長）、中国、ドイツ、オランダ、メキシコの各代表が退任した。この結果、今後1年間の理事会は、日本、米国（2名）、英国（2団体から2名）、フランス、スペイン、ノルディック（北欧諸国の代表）、カナダ（2団体から2名）、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、中国、インド、韓国、インドネシア、トルコ、南アフリカ、チュニジア、ウガンダ、ジャマイカの各団体の代表から構成される。なお、今回の理事会では、中国、南アフリカ、ブラジルの代表が欠席した。

### 2. 施策方針書（PPP：Policy Position Paper）7の承認

新たな施策方針書である「有効なガバナンス、リスク・マネジメント及び内部統制（Effective Governance, Risk Management, and Internal Control）」（PPP 7）について、草案が議論され、承認された。

### 3. IFAC理事会内の小委員会のメンバー構成

理事会には、計画・財務委員会（PFC）、ガバナンス・監査委員会（GAC）、政策・規制アドバイザー・グループ（PPRAG）の3つの小委員会があるが、本年度のメンバー構成が承認された。

### 4. 翻訳・使用許可に関する方針書の改訂

IFACの公表物及び基準書の翻訳や使用許可について、資金調達の一環として、一定の条件に該当する翻訳を行う団体に対してライセンス・フィーを課すことを明確にした方針書の改訂が議論され、承認された。

### 5. その他

- 次回の会議は、2013年2月28日、3月1日に、ニューヨークで開催される予定である。  
（常務理事／IFAC理事会ボード・メンバー 篠原 真）